

3-8. 都市防災

【実現したこと】

- ①都市施設の整備(耐震改修促進等)
- ②地域防災力の強化
- ③雪害対策
- ④水害対策

【今後の課題】

- ①都市の安全性強化
- ②地域防災力の強化

都市防災については、平成19年に耐震改修促進計画を策定し、公共のみならず民間も含めた建物の耐震化を進めるなど、都市施設の整備を実施しました。また、災害訓練・演習の実施、自主防災組織（8団体43町内会）の設立を促進するなど、地域防災力の強化に努めています。

その他、小型除雪機貸与事業、融雪槽設置費補助交付金制度などの雪害対策、水防訓練の実施や滝川排水機場・池の前排水機場等の維持管理などの水害対策を実施しています。

一方、今後の課題としては、街区公園の整備、各都市施設の更新・維持・耐震化等による都市の安全性強化や自主防災組織の育成促進、市民参加の防災訓練の実施、地域との連携体制の設立による地域防災力の強化があげられます。

3-9. 雪や寒さを生かしたまちづくり

【実現したこと】

- ①積雪地に適した市街地形成
- ②除排雪の円滑化
- ③冬を生かした観光振興

【今後の課題】

- ①積雪地に適した市街地形成
- ②冬に強い交通環境の整備
- ③雪エネルギーの活用
- ④冬を生かした健康づくり、地域振興

雪や寒さを生かしたまちづくりについては、地区計画により堆雪スペースを確保するなど、積雪地に適した市街地の形成に努めました。また、冬季のマナー等についての住民への情報提供・指導等による除排雪の円滑化、丸加高原において「アウトドア体験ランド」を開催するなど、冬を生かした地域振興に取り組みました。

一方、今後の課題としては、積雪寒冷地に適した市街地形成を継続して進め、道路情報等を円滑に提供する仕組みの検討などにより冬に強い交通環境の整備を進めることがあげられます。また、雪エネルギーの利活用に関する調査・検討などによる雪エネルギーの活用、新たなスポーツ・レクリエーション等の研究・普及、冬を生かした観光・産業の振興など、冬を生かした健康づくり・地域振興などがあげられます。

4. 市民のニーズ（市民アンケート調査結果）

（1）調査概要

滝川市都市計画マスタープランの見直しにあたって、滝川市の都市づくり全般に係わる満足度、これからの暮らしや都市のあり方や都市づくりへの住民参加の意向を把握し、市民のニーズから今後の都市づくりの方向性を整理するため、市民アンケート調査を実施しました。

・調査対象

滝川市内の満 20 歳以上の市民 ※住民基本台帳より無作為に抽出（単純無作為抽出）

・配布数

2,500 票（滝川市街地 2,000 票、東滝川地区 250 票、江部乙地区 250 票）

・調査方法

郵便による配布、回収

・調査期間

H21 年 6 月 5 日（金）～6 月 15 日（月）

・調査内容

問 1 現在の滝川市の都市づくりに関する満足度

都市づくり、環境、道路・交通、住みやすさ、住み続ける意向について

問 2 これからの暮らしや都市のあり方について

コンパクトなまちづくり、買い物に関する意向、住まい方の意向、今後の都市のあり方について

問 3 住民参加について

問 4 回答者の属性

問 5 自由意見

・回収結果（※7 月 17 日回収分まで有効）

	滝川市街地	東滝川地区	江部乙地区	その他	無回答	計
配布封	2,000	250	250			2,500
回収数	685	95	88	20	27	915
回収率	34.3%	38.0%	35.2%			36.6%

(2) 調査結果

①都市づくりに関する満足度

現在の滝川市の都市づくりについては、「住環境の快適性」、「自然環境の豊かさ」など、地方都市における特徴的な環境について満足度が高くなっています。また、「幹線道路の整備」の満足度が高く、4車線の幹線道路を中心とした道路整備について評価が高くなっています。

一方、中心市街地の活力衰退によるまちのにぎわいや活気に対する満足度が全項目のなかで最も低く、多雪地域であることから、道路の「除排雪」に関する満足度が低くなっています。

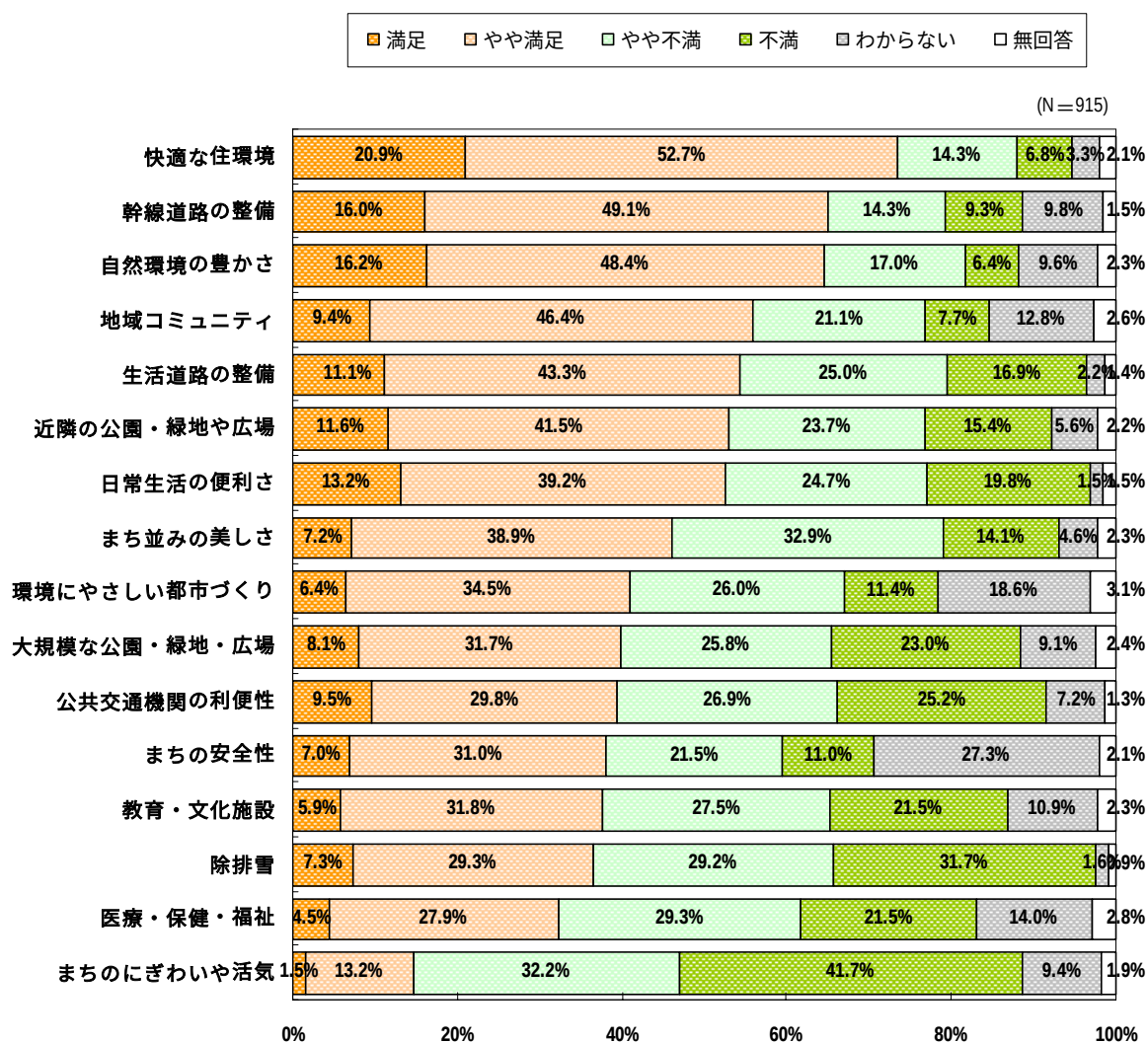


図 2.30 滝川市の都市づくりに関する満足度

②住みやすさ・今後住み続ける意向

住みやすさについては、約6割の回答者が住みやすい（「住みやすい」、「まあまあ住みやすい」の合計）と回答しており、年齢別にみると、年齢が高いほど住みやすいという回答が多くなっています。

また、今後住み続ける意向については約6割とほぼ同じ割合となっており、年齢別にみると、年齢が高くなるほど住み続けたい意向が多く、若い世帯では他の市町村へ移りたい意向が多くなっています。

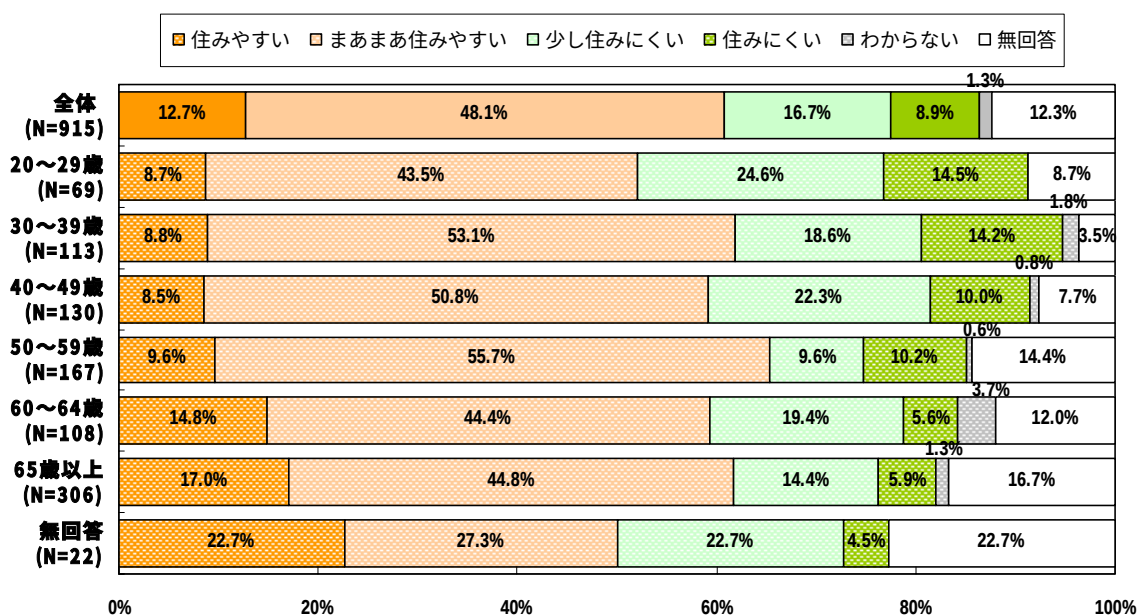


図 2.31 滝川市のすみやすさ

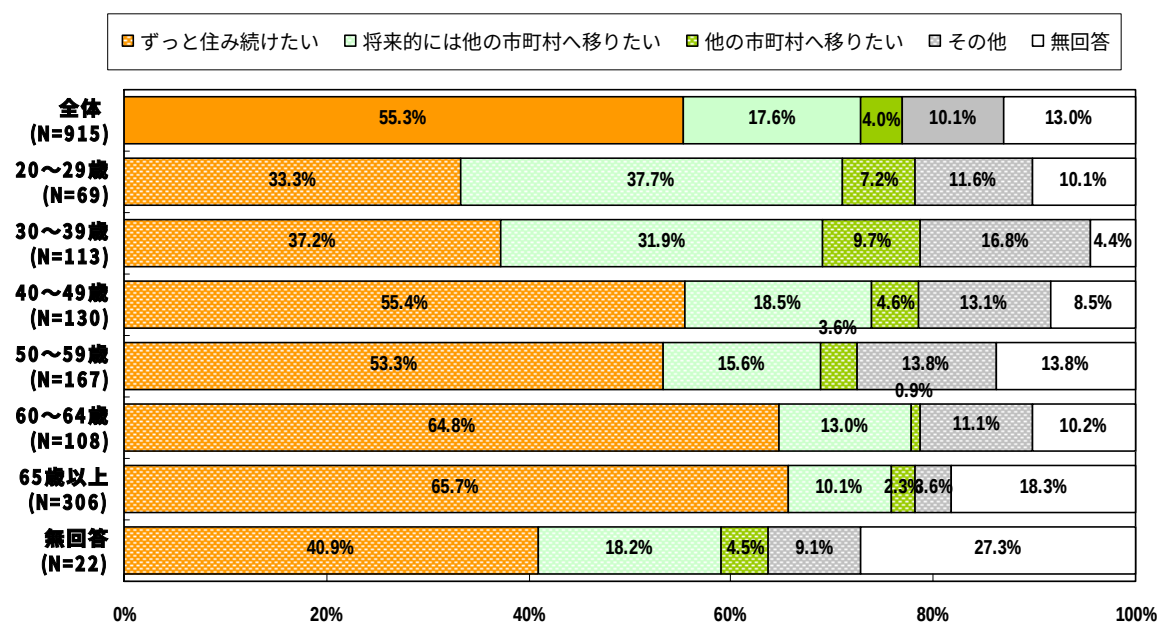


図 2.32 住み続ける意向

③これからの暮らしや都市のあり方

都市のコンパクト化については約6割、都市の拡大については約2割が賛成しており、都市のコンパクト化に賛成する意見が多くなっています。

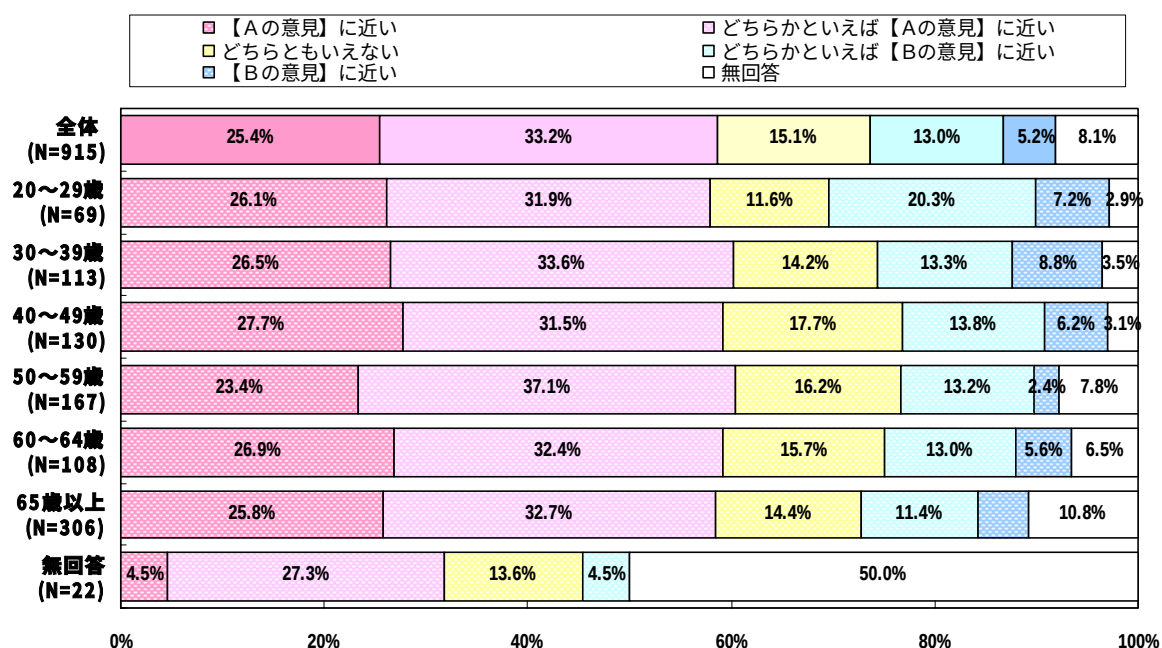
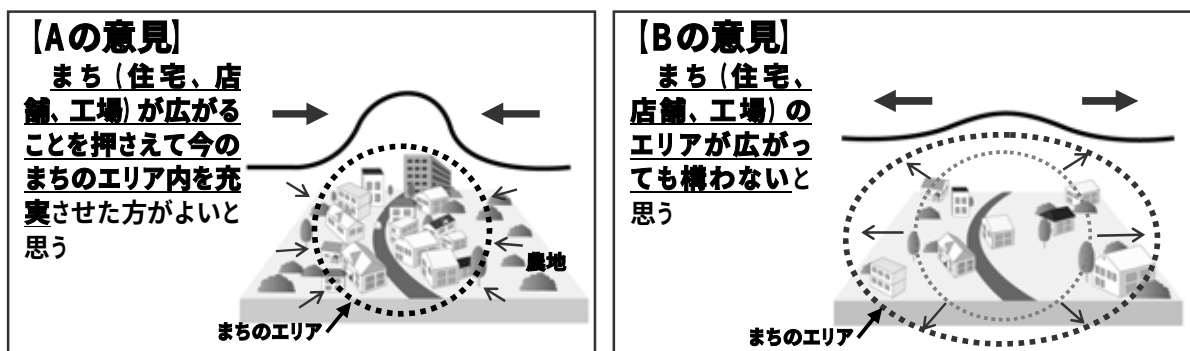


図 2.33 コンパクトな都市づくりに関する意向

④ 「コンパクトな都市づくり」の言葉の意味

「コンパクトな都市づくり」の言葉を「聞いたことがあり、意味もだいたい知っている」が約3割、「全く聞いたことはない」が約4割となっており、年齢が高くなるほど認識度が高くなっています。

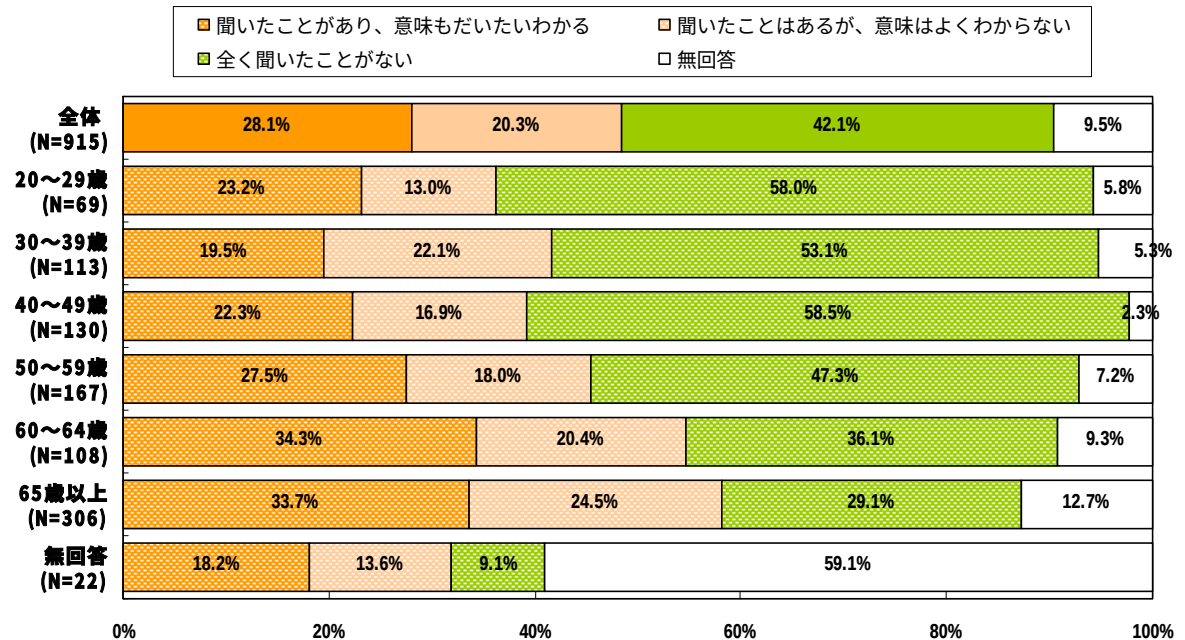


図 2.34 コンパクトな都市づくりに関する意向

⑤今後の日常生活

「徒歩や公共交通と自家用車の両方が利用しやすい生活を重視する」が約4割、「徒歩や公共交通を利用しやすい生活を重視する」が約4割を占めており、今後の滝川市での買い物などの日常生活について、歩いて買い物できる環境の整備や公共交通の充実、車を利用する生活との両立が必要と考えられます。

また、年齢別、移動手段別にみると、年齢が高くなるほど、徒歩や公共交通を利用しやすい生活を重視する傾向となっている一方で、車利用者でも両方が利用しやすい生活を重視する回答が約半数と高くなっています。

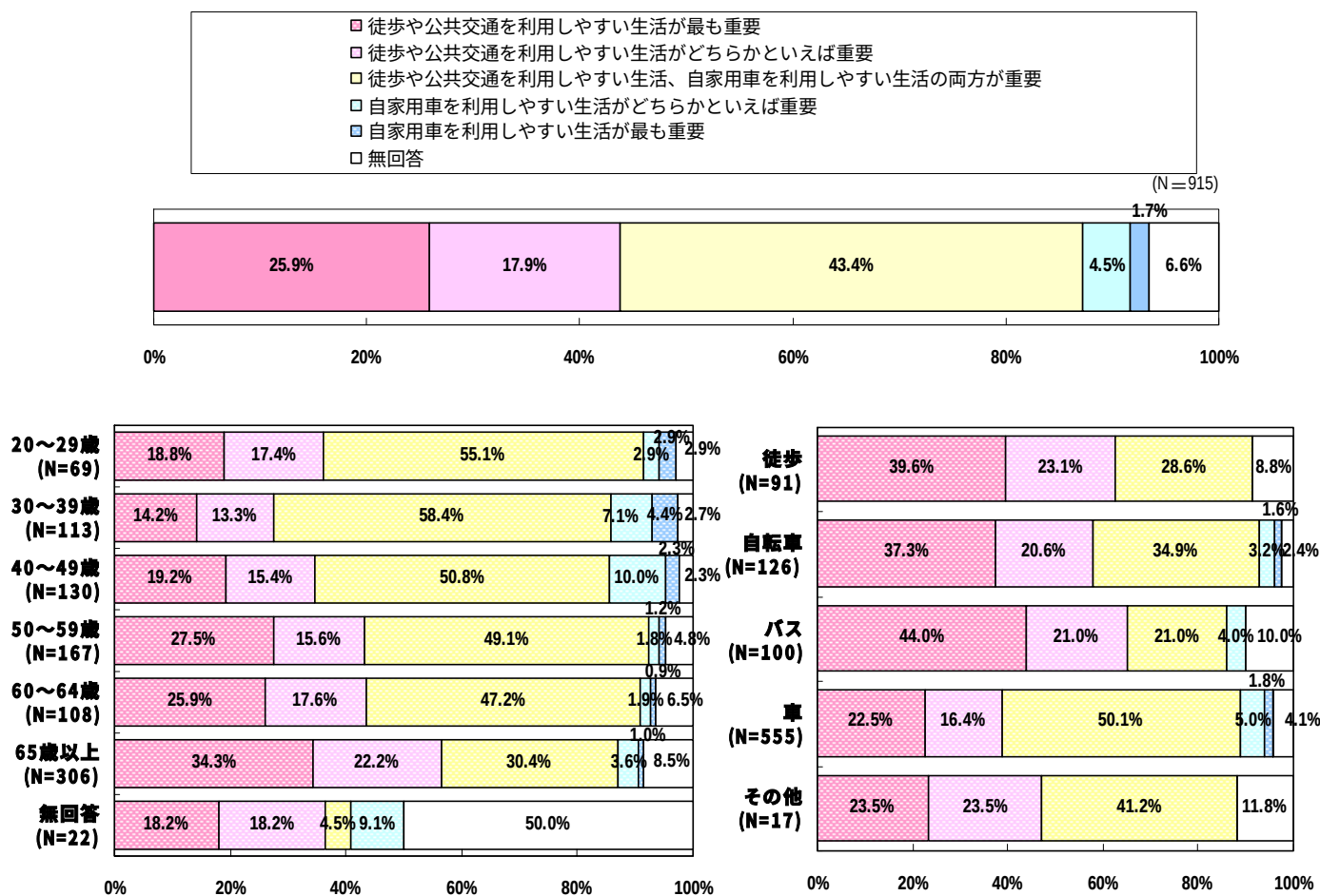


図 2.35 今後の日常生活 全体（上）、年齢別（左）、移動手段別（右）

⑥今後の住まい方

今後の住まい方については、「バス停に近い場所で比較的利便性の良いところに住みたい」という意向が約4割と最も多く、公共交通を軸として生活利便性が確保できる都市づくりが重要と考えられます。

また、年齢別、移動手段別にみると、年齢が高くなるほど、車を利用しない人ほど、徒歩・公共交通を利用しやすい生活を重視する傾向がみられ、高齢化社会に備えた公共交通の充実や生活利便性の確保が必要と考えられます。

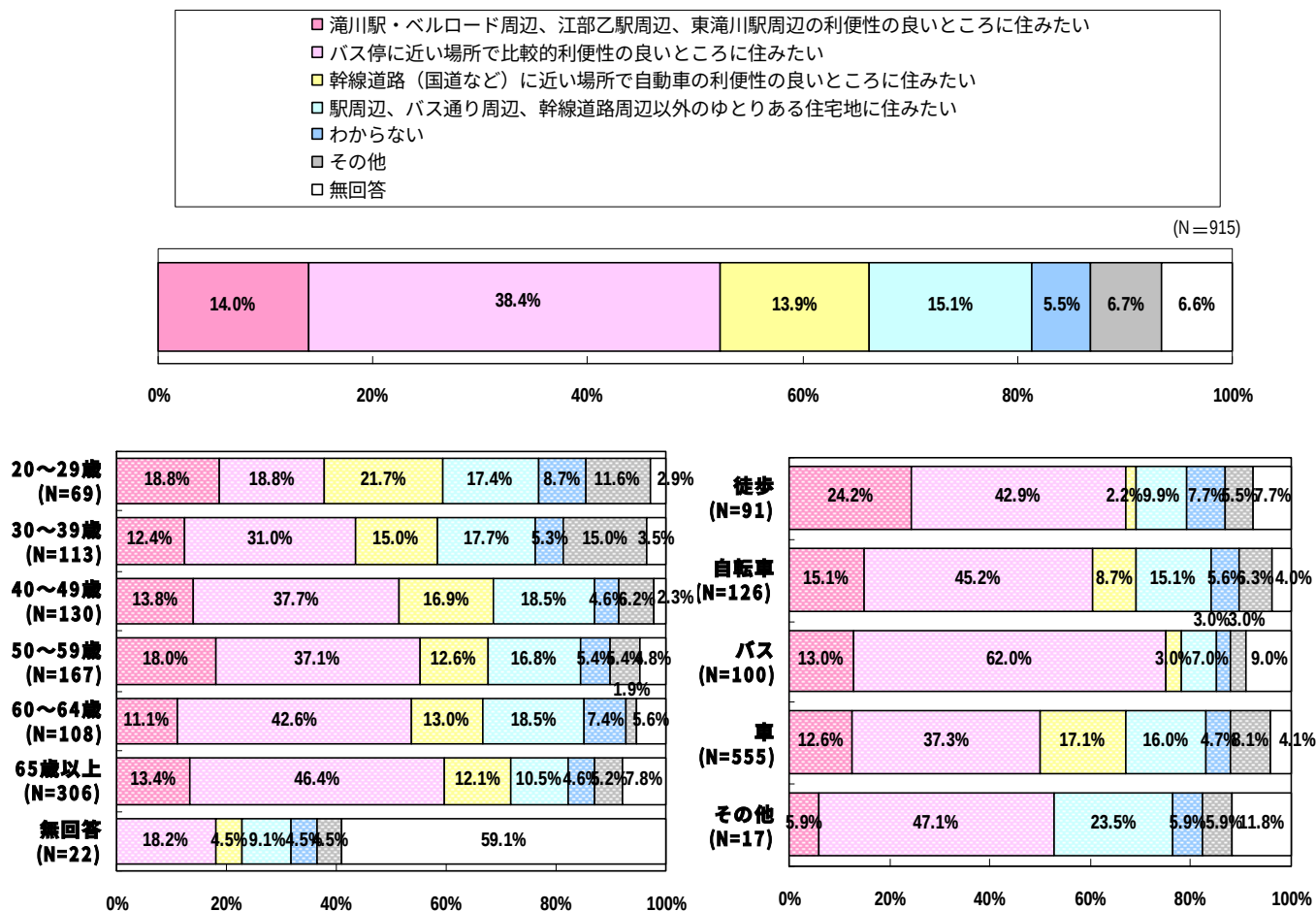


図 2.36 今後の住まい方 全体（上）、年齢別（左）、移動手段別（右）

⑦今後の滝川市の都市づくりのあり方

「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市を望む回答が約6割と最も多く、次いで、「利便性がよく、暮らしやすい」都市が約4割となっていることから、滝川市の将来像として少子高齢社会に対応した利便性の高い都市づくりが求められています。

(N=915)

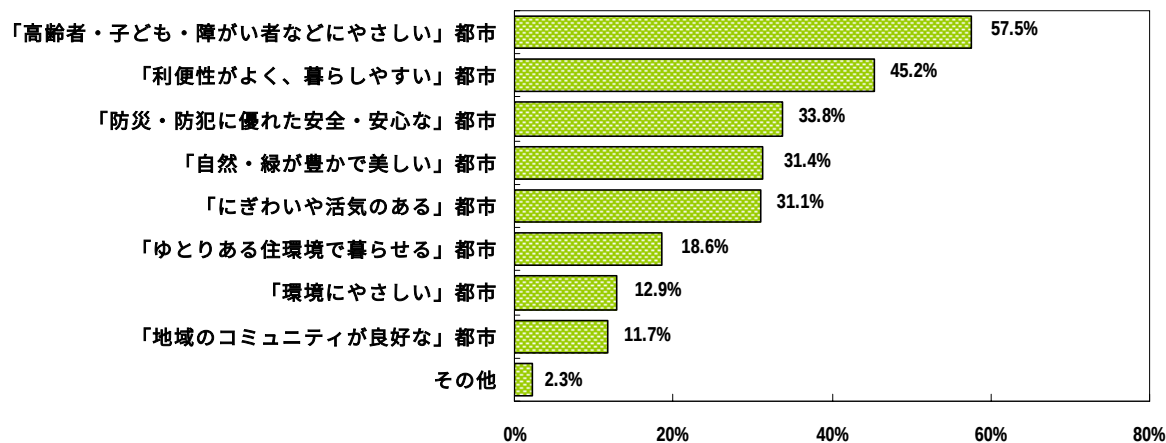


図 2.37 滝川市の都市づくりのあり方

⑧今後の都市づくり活動

行政主導のまちづくり活動に賛成する回答と、地域住民主体のまちづくり活動に賛成する回答がそれぞれ約4割とほぼ同程度となっており、行政主導のまちづくり活動への意向と地域住民主体のまちづくり活動に関する意向がほぼ同程度となっていることがわかります。

また、年齢別にみると、20～29歳では、地域住民主体のまちづくりに賛成する回答が約半数以上と他の年齢に比べて多くなっています。

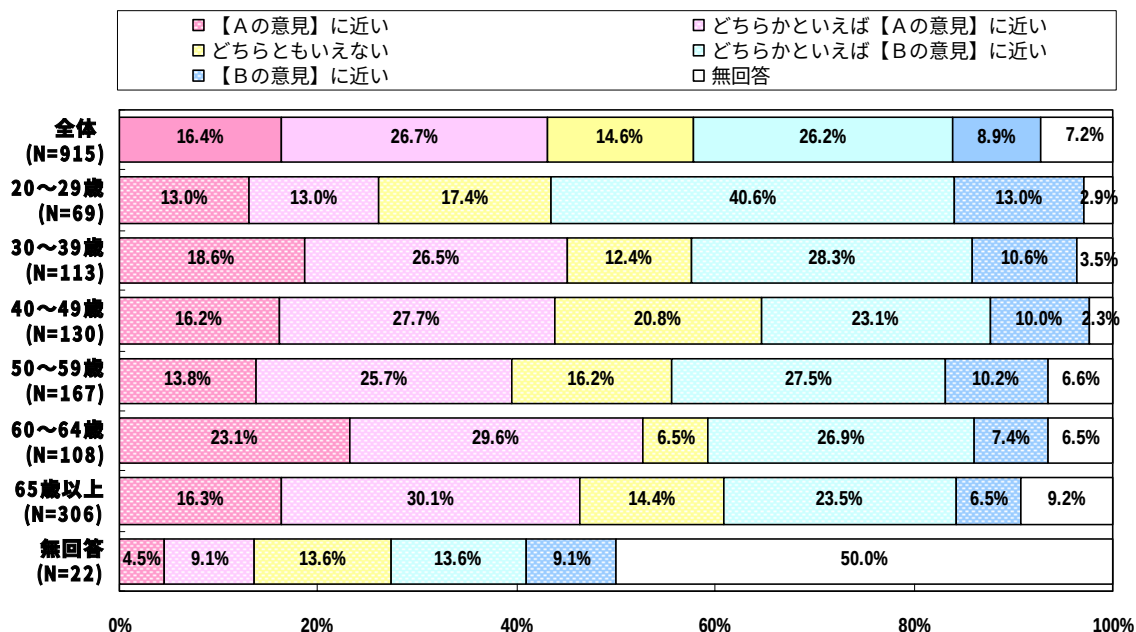
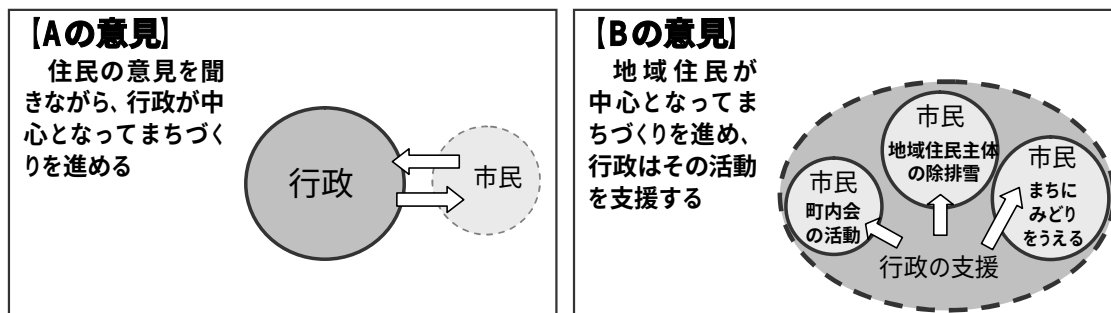


図 2.38 都市づくり活動に関する意向

⑨都市づくり活動への参加意向

参加意向のある（「参加している」、「参加していないが機会があれば参加したい」の合計）の回答が約4割、「参加していないが、関心はある」の回答が約3割となっており、都市づくり活動への関心が高くなっています。

また、年齢別にみると、年齢が高くなるほど参加意向が高くなっており、20～29歳では、地域住民主体のまちづくりに賛成する回答が多くなっていましたが、まちづくり活動への参加意向は低くなっています。

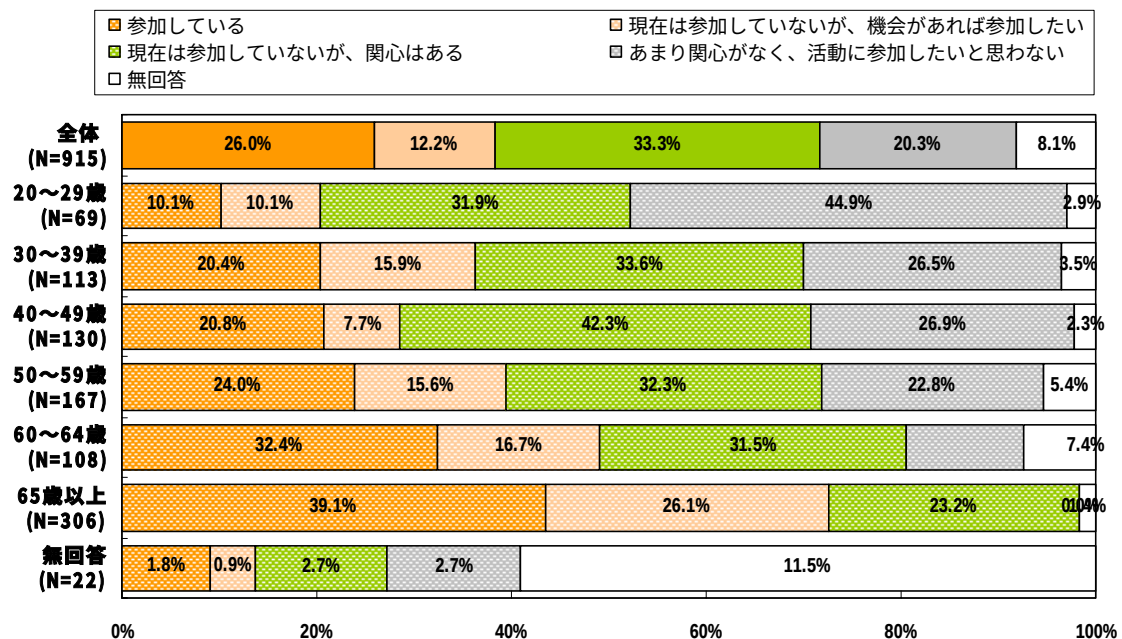


図 2.39 都市づくり活動への参加意向

地域活動の内容としては、「ゴミ拾いなどの美化活動」が約5割と最も高く、次いで「地域の高齢者の見守り活動」、「除雪など、高齢者等への生活支援」、「地域パトロールなどのまちの安全に関する活動」、「花や緑を植える緑化活動」の順にそれぞれ約4割を占めていることから、今後の地域活動に関して、高齢化への対応、都市の安全確保、美化活動に関する取り組みへの意向が高くなっています。

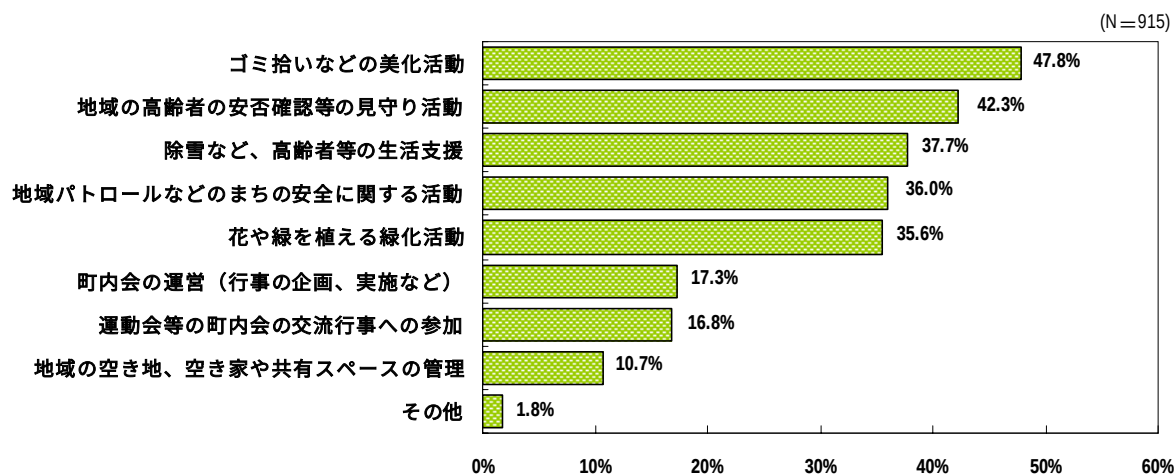


図 2.40 積極取り組むべき地域活動

(2) 市民ニーズからの把握できる今後の都市づくりの方向性

1) コンパクトな都市づくり

現在の滝川市の都市づくりに関する満足度については、特に「まちのにぎわいや活気」や「道路の除排雪」に関する満足度が低くなっています。一方で、都市の拡大よりコンパクトな都市づくりについて賛成する意見が約6割と多くなっており、都市のコンパクト化への意向が高くなっています。

これらの結果から、まちのにぎわいや活気の創出、道路の除排雪を含めた効率的・効果的な都市の維持管理を実現するため、今後はコンパクトな都市づくりを進めていくことが重要と考えられます。

2) 利便性の高い都市づくり

今後の日常生活については、歩いて買い物できる環境づくり、公共交通の充実が重要となる一方で車を利用する生活との両立が重視されており、また、今後は利便性の良いところに住みたいという意向が高くなっています。今後の滝川市の都市づくりのあり方については、「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市、「利便性がよく、暮らしやすい」都市への意向が高くみられます。

これらの結果から、車を利用する生活に配慮しながら、公共交通を軸として生活利便性が確保できる都市づくり、少子高齢化社会に対応した利便性の高い都市づくりが求められています。

3) 市民と協働で進める都市づくり

これからの都市づくり活動のあり方については、行政主体と地域住民主体のまちづくり活動への意向がほぼ同じ割合で見られます。また、都市づくり活動への参加意向が約4割と市民の関心度が高く、その具体的な活動内容の意向では、少子高齢化に対応する都市づくり活動への関心が高くなっています。

これらの結果をふまえ、今後は市民の都市づくりへの参加を促進し、これまでの市民活動に加え、高齢者等への支援などを中心とした活動を行うなど、市民と行政が協働で進める都市づくりへと方向転換を図ることが必要と考えられます。